

イントロダクション： イエスのミニストリーを一言でまとめるとしたらあなたは何と答えるだろう？ 私は「神の国」という言葉に行き着いた。福音書を深く読んでいくと、イエスは御国の存在をはっきりと示しておられ、それがどういうものであるかということを描写やデモンストレーションを使って説明されている。残念なことに私たちの多くは聖書を読む時、福音のこの中心的メッセージを見過ごしがちである。その理由の一つは、私たちは天国と地獄というレンズを通してキリスト教を理解するように教え込まれているからである。これらは確かに重要なテーマではあるが、イエスは永遠のいのちがある、ということだけにとどまらず、やがて来たるべき新しい王国、そしてどのようにしたらその御国の民となることができるのか、ということを中心に教えておられる。

1. あなたがたは、正しくない者は神の国を相続できないことを、知らないのですか。だまされてはいけません。不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、盗む者、食欲な者、酒に酔う者、そしる者、略奪する者はみな、神の国を相続することができません。あなたがたの中のある人たちは以前はそのような者でした。しかし、主イエス・キリストの御名と私たちの神の御霊によって、あなたがたは洗われ、聖なる者とされ、義と認められたのです。(6:9-11)
 - a. 神の国とはどのような所なのだろうか。これは想像するよりも説明する方が難しいかもしれない。ある人は神が支配し統治している場所だと言うだろう。しかしその説明には限りがある。これについてはイエスご自身も明確には説明されていない。
 - b. 福音書の中でイエスは御国の存在を明らかに宣言されており、弟子たちにもそうするよう教えている。またイエスはしるし、不思議なわざ、奇蹟によって御国を示されている。御国の説明としてもっとも近いものはイエスのたとえ話であろう。
 - c. 今日の箇所パウロは教会が神の御国だとは言っていない。それよりも、古い性質を捨てていない者は神の国を相続できないと述べている。つまり、教会の中で古い性質を脱ぎ捨て、主にあって成熟する者はいつの日か神の国を相続できるのである。
 - d. 教会自体は神の国ではないが、教会は迷う人々を神の御国へと導く道しるべの役割となるべきである。教会は聖霊の宮(神殿)である。神殿というのは神が人間に出会ってくださる聖なる特別な場所で、この神殿礼拝という概念は神の御国を理解するうえで中心的要素となる。神と人類を分けるバールが取り除かれ神と直接お会いする時、神の御国が完全に見えてくる。
 - e. 御国を相続する者は御国の奥義を理解し、その理解によって実を結ぶ。マタイ 13 章に見られるイエスの有名なたとえ話では、御国のメッセージを理解する者は実を結ぶ者だと言われている。
 - f. イエスのこの地上での働きの中心は神の御国についてであり、同様に御国のメッセージを理解する者は神に栄光を帰す人生を送る。
 - g. 御国を理解することは単に知的レベルで得られるものではない。もしそうであればイエスもそのレベルでアプローチされたはずである。それよりもイエスは経験的、あるいは想像的アプローチにより、たとえを通して御国の真理を説き明かされている。
 - h. イエスははっきりと、御国に入るには子供のようになり霊的新生を経験しなければならないと教えている。霊によって生まれ変わらなければ神の御国を見、またそこに入ることはできない。